

# 平成29年度 第1回白根巨摩中学校自己評価書(前期)

平成29年8月30日作成

学校長： 長澤 光

記述者氏名：教頭 金子 浩

## 学校教育目標

『やる気をもった人間性豊かな生徒の育成』

- (1) 強い体と心をつくる。(心身の健康)
- (2) すなおに見聞きし、考えて行動する。(考えて行動)
- (3) 美しいものを愛し、自分を創り出す喜びを知る。(創り出す喜び)
- (4) 働くことを好み、力を合わせてがんばりぬく。(やりぬく力)

## 学校経営方針

教育基本法、学校教育法、及び学習指導要領等の精神に則り、県教育委員会、市教育委員会の重点施策に従い、本校の伝統、時代の要請、生徒や地域の実態を十分考慮し、次に示す事項を基本方針として創意工夫を生かした特色ある学校づくりを目指す。

- (1) 各教科・領域における基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、今日的課題に対応し、たくましく生きることのできる力を育てる教育の充実に努める。
- (2) 自分に誇りを持ち、自己実現に向けて努力することの大切さや、仲間との交流や自然と共生することの大切さを理解させる心の教育の充実に努める。
- (3) 危機意識を高め、自己管理能力を育てる健康・安全教育の推進に努める。
- (4) 地域の教育力を積極的に活用し、学校や郷土を愛し、誇りに思う生徒の育成に努めるとともに家庭や地域との連携を深め、信頼感に支えられた学校づくりの推進に努める。
- (5) 教師として自らの研修を計画的・組織的に進め、専門職としての教職員一人ひとりの資質や力量の向上を図る中で全職員の個性や創意を生かした活力ある学校運営の推進に努める。

## I 全体評価

※平成20年度第1回学校関係者評価委員会の、A・Bの肯定的意見の割合の合計を目安にしたのでは、A・Bの重みの違いが結果に出ないというご指摘をいただき、平成20年度の第2回はA：5点、B：4点、C：2点、D：1点と換算し平均4.5を目標と考えた。今年度も引き続きこの指標を使い学校評価を考えていきたい。なお、生徒アンケートについては平均4.0を目標とした。

また、平成27年度から、「本年度の重点項目」を設定するなど、アンケート項目の精選を行なった。今年度、「本年度の重点項目」以外のアンケート項目は変更していない。

全19項目の平均得点は指標を上回る4.7となり、達成度が高い結果であったといえる。前年度第2回の平均得点とほぼ同様の数値を示しており、達成度の点では高水準を維持している。

また、得点分布に関しては次のようになった。

4.5以上	18項目	(18項目)
4.4以上4.5未満	1項目	(1項目)
4.3以上4.4未満	0項目	(0項目)
4.2以上4.3未満	0項目	(0項目)
4.1以上4.2未満	0項目	(0項目)
4.0以上4.1未満	0項目	(0項目)

※( )内はH28年度第2回

今回の全平均は、昨年度第2回の結果とほぼ同じであった。ほとんどの項目で目標とした4.5以上を得たことは、自分たちの実践が昨年同様、高い水準を保っていると評価しているということがいえる。しかし、今年度の重点目標の1つである「道徳教育」の項目については、目標である4.5に達しなかった。また、「教科指導」「特別活動」の項目では目標の4.5には達したものの、まだ十分ではないと考えている者もいる。それらについては、2学期以降の教育活動における重点内容として注視していきたい。

## Ⅱ 各領域ごとの評価

1 学校運営	対 応
<p>◇領域平均は4.6で、4「道德教育」を除くすべての項目で目標とした4.5を上回っている。このことから、教職員は互いの協力体制のもと、学校教育目標の具現化に努力しているといえる。</p> <p>◇「道德教育」については平均4.0で、すべての項目中、唯一目標の4.5を下回った項目である。また、目標である4.5を上回ったものの、B評価やC評価が多く付いた項目として4「時間を守る活動」があげられる。</p> <p>◇平成31年度より、中学校では「特別の教科 道德」が全面実施されるため、本年度の重点項目に「道德教育の充実」を取り上げた。校内研究会においても、各教科・道德において話し合い活動の充実に取り組んできているが、道德授業の確実な実施や教科化に向けての教材研究など、まだまだ十分でないと考えている職員が多い。</p> <p>◇生徒アンケートの「時間を守ることができていますか」の項目では、平均得点は4.7であり、生徒は肯定的評価を付けているが、教職員には、自分が守れていないとか意識が不足していたなどという声があることから、2学期以降もさらに取り組みを深化していきたい。</p>	<p>◎道德教育については、2学期には授業研究が計画されている。また、例年行っている道德公開が11月に予定されていることから、校内研究会や学年内での学習会等を通して、道德授業の確実な実施に向けて、授業時間の確保と授業内容の向上を図っていく。</p> <p>◎道德教育や時間を守る活動などの重点項目については、今後の取り組みについて、プロジェクトチームを中心に強化していく。</p> <p>◎各自が学校教育目標を意識し、現時点でどのように校務分掌を通して学校運営に参画してきたかを、人事評価の自己観察書などを活用し、振り返る機会を持つことで、意識の向上を図る。</p>
2 教科指導	対 応
<p>◇平均得点は4.7で、すべての項目で目安の4.5を上回った。特に、「学習規律を確立し、わかる授業を行っている」については、4.9と高い評価を付けている。授業規律を確保し、集中して授業に取り組むように日々指導しており、生徒の授業への集中力は保たれているといえる。</p> <p>◇「言語活動の充実・授業改善」の項目には、B・C評価を付けた者が多く、前年度2回目の平均より0.2ポイント下がっている。関連する生徒アンケートの④「授業は楽しいか」(4.4)⑤「授業がわかるか」(4.4)⑩「家庭学習」(4.2)を見ると、目安の4.0は上回っているものの、他の項目の平均に比べて低い結果になっている。</p> <p>◇「言語活動の充実・授業改善」については、校内研究会や人事評価の授業提供を通して取り組んできている。しかし、1学期末ということもあり成果がはっきりしない等の理由から、厳しく評価した教師が多いと思われる。現在も校内研究や人事評価のための授業提案等において、各教師が精力的に授業改善に努めているため、今後、向上が期待できる。</p> <p>◇家庭学習については、各学年ごと、週末課題に取り組んでいる。各学年とも、週末課題を出すだけでなく、きちんと提出させることへも取り組み、全生徒が提出できるように、個別対応をしながら、粘り強く指導を継続している。また、毎月8のつく日を「家庭学習振り返りの日」として、「学びの甲斐善8か条」をもとに、家庭学習を振り返るよう、全校で取り組んでいる。</p> <p>◇生徒アンケートの授業に関しては、3つの項目全てで昨年度第2回目を上回り、生徒目標の4.0以上を達成している。④「授業が楽しいか」と⑤「授業がわかるか」については0.2ポイント、⑥「話を聴いているか」については0.1ポイント向上しており、ここ数年、校内研究などを通して取り組んでいる授業改善に向けての実践が、少しずつ成果となって表れてきているといえる。</p>	<p>◎全国学力学習状況調査や学力把握調査の結果分析をもとに、本校の学力課題解決に向け今後も授業改善に努めていく。わかる授業を実践することにより、生徒が達成感や充実感を味わい、楽しく学ぶことができるようにする。</p> <p>◎校内研究会の研究主題「生徒が主体的に表現しあう授業の創造」～話し合い活動の充実を通して～を追究し、言語活動(主体的、対話的で深い学び)の充実を授業で推進することで、思考力・判断力・表現力等を養い、さらなる学力の向上を目指していく。</p> <p>◎人事評価のための授業提案、一人一実践の授業提案を通して、各個人の授業力の向上を図る。また、同僚の授業を精力的に参観し、自分の授業にいかすとともに、同僚の授業力向上に貢献できるような助言をする。</p> <p>◎今後も週末課題への取り組みに引き続き重点を置き、個に合った指導を進める。また、生徒が家庭学習について定期的に振り返る機会を継続して設けていく。</p>

<p>3 生徒指導</p> <p>◇平均得点は4.9で目安の4.5を上回り、「問題行動等の早期発見・早期対応に努めている」「相談に積極的に応じている」の両項目で100%の肯定率を得ている。これは担任・学年・生徒指導等を中心に職員の共通理解のもと、学年の枠を超えて全体で指導が行われている結果とみることができる。本校では、白根巨摩中学校の「いじめに対する基本方針」のもと、年5回のアンケート調査と個人面談等が行われている。今後も報告・相談・記録などを丁寧に行い、生徒への指導に多くの職員が目配りするような体制づくりを強化していく。</p> <p>◇生徒アンケート③「困ったときに相談できる人がいますか。」(4.6)についての結果も、昨年度2回目のデータを0.1ポイントであるが上回った。悩みごと調査の実施やその後の面談等により、相談できる体制は整っていると考えられるが、さらに生徒とのコミュニケーションをとっていく。</p>	<p>対 応</p> <p>◎今後もアンケート調査、個人面談等を継続し、生徒の日常の変化に注視していく。また積極的にスクールカウンセラーを活用し、相談できる体制をとっていく。</p> <p>◎思春期特有の悩みや進路選択での戸惑いも予想されるため、計画的な個人面接を継続的に実施していく。職員の多忙化改善にも取り組み、これまで以上に一人ひとりの生徒へ声を掛けたり一対一で向き合ったりする時間を生み出していく。また、生徒と真摯に向き合い寄り添う中で、保護者の思いや生徒の心の声に耳を傾ける努力をしていく。</p>
<p>4 特別活動</p> <p>◇領域平均は4.7で、すべての項目で目標とした4.5を上回っている。このことから特別活動の面からも、学校教育目標である『やる気をもった人間性豊かな生徒の育成』が実践されていると考えられる。</p> <p>◇生徒アンケートについてもすべての項目で4.5以上の高い肯定的評価であった。「生徒会活動」「行事への協力」「合唱活動」のいずれにも90%以上の生徒が意欲的に取り組んでいることがわかる。なかでも⑧「行事はみんなで協力して楽しくできていますか」⑨「合唱に意欲を持って取り組んでいますか」については、98%以上の肯定意見が回答されている。</p> <p>◇「部活動の指導に積極的に取り組んでいる」については、前年2回目の4.7より0.2ポイント低くなっている。</p> <p>◇自由記述には、部活動で技術的な指導ができない、体力の衰えを感じるという回答がある。多忙化改善の観点から、部活動指導の負担軽減にさらに取り組む必要がある。</p>	<p>対 応</p> <p>◎2学期は学園祭(桃響祭)をはじめ、生徒が主体的に取り組むことができる生徒会行事も多い。生徒一人ひとりの参画意識を高め、意欲や積極性を向上させる絶好の機会として、生徒の主体性を引き出す取り組みを計画的に工夫していきたい。生徒会本部・学年生徒会・学級役員を中心に、自治的活動の基本でもある話し合いの活動も大切にしたい。</p> <p>◎今年度より毎週月曜日を部活動なしの日とするとともに、第1月曜日は、放課後に部活動や会議を行わない「きずなの日」としている。また、休日の部活動年間活動日数を69日以下にするよう定めている。今後も、これら部活動の負担軽減計画を確実に実施していく。また、外部指導者等の導入については、必要に応じて検討していく。</p>
<p>5 健康安全 6 信頼される学校</p> <p>◇健康安全における領域平均は5.0、信頼される学校の領域平均は、4.9と、いずれも目標を目標の4.5を上回っており、全ての項目において100%の肯定的評価となっている。</p> <p>◇毎月の安全点検により、校舎内外の危険箇所や破損箇所への対応を行っている。</p> <p>◇毎日の健康観察や看取り等により、生徒の心身の健康に注意を払っている。</p> <p>◇教職員としての自覚についても、日頃より十分に注意を払い、対応しているという結果が出ている。</p>	<p>対 応</p> <p>◎今後も施設の美化に努めるとともに、安全管理に注意を払っていく。また生徒にも校内美化に努め、協働する心やお互いを尊重する心を養っていく。</p> <p>◎定期的に服務規律について注意を促し、お互いに声をかけあうことができる良好な教職員の関係を築いていく。</p>